

細入地域

まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ

6月29日(土)に開催しました第1回ワークショップについてお知らせします！

本市では、人口減少と超高齢社会の本格的な到来に伴い、今後ますます財政状況が厳しくなることが予想されており、このまますべての公共施設を維持し続けることは明らかに困難な状況となっています。

こうしたことから、限られた財源のなかで、将来にわたって公共施設の適切な維持管理を行うため、施設の再編など「公共施設マネジメント」の取り組みを進めていますが、施設の再編については地域の皆様に様々な思いやご意見があることも承知しておりますので、地域の皆様のご意見を踏まえ、計画を策定していきます。

今年度は、細入地域・八尾地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいの皆様と富山市がともに考えるワークショップを開催し、このワークショップで出たご意見や地域の実情などを受け止め、「地域別実行計画」(次ページ参照)の策定に反映させるとともに、地域の皆様が住み続けたいまちづくりを進めていきたいと考えております。

こちらの「ニューズレター」は、ワークショップで検討されている内容をお知らせするとともに、広く地域にお住まいの皆様のご意見を募集するため、お配りするものです。

富山市における公共施設の現状と課題

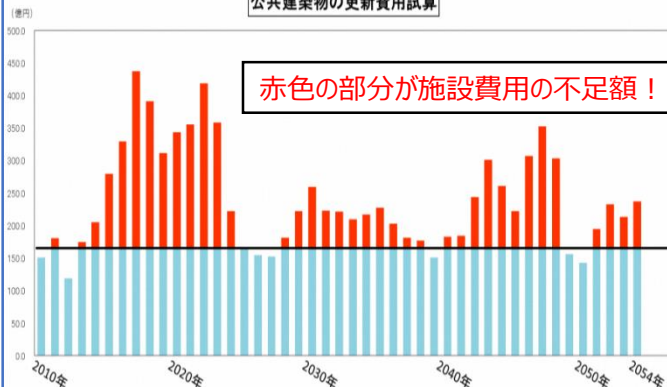
◆ 公共施設の老朽化

富山市の公共施設の築年別整備面積を見ると、全体の40%がすでに建築後30年以上経過しています。

これらの築30年を超える建物は今後、大規模修繕や建替えが必要となり、多額の費用が必要となることが想定されます。

今ある公共施設をこのままの規模で維持すると、今後40年間で約3,300億円、年平均82.5億円が不足すると見込まれます。

公共建築物の更新費用試算



※横線は直近の公共施設への投資額の平均
※出典：富山市公共施設等総合管理計画

◆ 人口減少

富山市の人口は、令和42年(2060年)には、現在から10万人以上減少し、約302,000人になると推計されています。

なお、細入地域では、令和42年(2060年)には、現在の人口から大きく減少し、245人になると推計されています。

人口減少、そして少子高齢化の進行により、市税などが減収し、公共施設にかけられる費用はますます減少することが見込まれます。



※出典：富山市公共施設マネジメントアクションプラン戦略編

地域別実行計画の策定

地域別実行計画は、「富山市公共施設マネジメントアクションプラン」に基づき、地域の実情やニーズを踏まえ、公共施設の再編に向けた方針を定めるものです。

地域別実行計画は、「地域の将来的な公共施設の再編方針」と「優先して取り組むべき個別具体施設の整備方針」で構成されます。

地域別実行計画

地域の将来的な公共施設の再編方針

施設の用途別に、将来にわたる整備方針を定めます。公共施設における課題だけでなく、地域の課題や特徴、まちづくりなど、より地域の実情を反映させます。

優先して取り組むべき個別具体施設の整備方針

地域の公共施設の中でも優先的に取り組む必要のある施設を選定し、地域の将来的な公共施設の再編方針よりも具体的な整備方針を定めます。

ワークショップの流れ（予定）

R1 7月～12月

行政
(富山市)

進め方
下調整

ステップ1
進め方・目標合意
課題と解決策検討

ステップ2
課題解決のための
整備方針検討
優先取り組み施設
検討

ステップ3
優先取り組み施設の
整備方針案等の検討

ステップ4
地域別実行計画の
検討

決定

地域の皆様とのコミュニケーション

第1回ws (6月)

- 進め方・目標の確認
- 検討対象施設の確認
- まちづくりと公共施設の課題の検討
- 課題解決のための整備の方向性検討

ニューズレター

第2回ws (8月)

- 課題解決のための整備方針の検討
- 優先して取り組むべき施設の検討

ニューズレター

第3回ws (10月)

- 課題解決のための整備方針の検討
- 優先して取り組むべき施設の具体的な整備方針案の検討

ニューズレター

オープンハウス

第4回ws (12月)

- 優先して取り組むべき施設の具体的な整備方針案の検討
- 地域別実行計画案の検討

ニューズレター

オープンハウス：住民の皆様が集まる施設などで行うパネル展示型説明会です。ここでも意見をお聴きします。

細入地域 第1回ワークショップが開催されました

6月29日（土）、細入公民館にて、「細入地域 第1回まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ」が開催されました。細入地域にお住まいの19名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。

今回のワークショップでは、3つのグループに分かれ、ワークショップの進め方の確認と、細入地域のまちづくりや公共施設の現状と今後について課題だと感じていることについての議論が行われました。最後には全体で議論した内容を共有し、第1回のワークショップを終えました。



第1回ワークショップの様子

第1回ワークショップで皆様からいただいたご意見

◆ 計画検討やワークショップの進め方について

■ 地域別実行計画の考え方や検討の進め方

- 細入地域には、中山間地域ならではの地域特性や課題がある。この地域に理解がある人に計画策定に関わってほしい。
- 建物の統廃合だけでは地域の課題解決はできない。同規模のまちでのまちおこしや、若者が集まる施設の成功事例を知りたい。特に観光施設の活用は参考になるのではないかな。
- そもそも地区の住民が減少、高齢化しており、施設の話の前に地区そのものがなくなってしまう危機感がある。
- 大沢野の下々地区と細入地域は、生活圏が重なっており、同じ学校に通っている家庭も多い。避難所も柔軟な対応が必要なため、一体的に考えた方が良いのではないかな。
- 市の説明を聞いて、このワークショップはある程度、ゴールが決まっている中で進めていると感じた。
- スポーツ施設などの若い世代の定着を促すような施設は残り、充実させたい。そうしないとさらに若い人が減ってしまう。

■ ワークショップの進め方

- このワークショップの目的は、地域全体の課題を解決することなのか、それとも施設の再編や活用を考えることなのか。どちらに焦点を当てて話し合えば良いのかわからない。
- 資料の中に稼働率とあるが、この数字の分母と分子がわからないので教えてほしい。
- 将来を考えるならもっと若い人の意見を聞くべきではないかな。
- 細入地域には南北2つの地区がある。使用しない他地区の施設について廃止の意見は言いづらいため、施設の再編については地区別に話し合った方がいいのではないかな。

◆ まちづくりの現状と課題

■ 人口問題

- 人口減少していくことは明らかなので危機感はある。
- 40年後に地域人口が250人になるのはショックだが、子どもや孫の時代に向け、人口減少が緩やかになる地域にしたい。
- 小学生や中学生が少ない。若者が結婚しても大沢野地域や旧富山市域に出ていってしまう。
- 若者はいるが、住みたくても家を建てる場所がないため、宅地を作るなどの環境を整備することが若者の定住には必要だ。
- 後期高齢者ばかりが地域に残っていることが一番の課題だ。それに対する対策がないことに住民も気づいてきている。

■ 買い物・医療・交通

- 地域内に医療施設がないため、特に緊急時は遠い他の地域まで行かないといけない点は不安だ。対応策を考えたい。
- 高齢者の1人暮らしが増える中、移動スーパーや訪問医療を整備することが大切になってくるのではないかな。
- 大沢野と細入は、近接しているのに、シルバータクシーが使えるのは大沢野だけというような待遇の差がある。

■ 空き家・空き地

- 高齢者の増加に伴い、1人暮らしの世帯主が亡くなることで空き家が増加している。
- 老朽化した空き家が増えているが、それらが地域内に並ぶのは若者も嫌がるのではないかな。観光客を増やすには、まちの景観への対応も必要となる。

■ 災害・避難所

- 築年数や稼働率などのデータのみで単純に再編するのではなく、災害時のことも考えた公共施設のあり方を検討してほしい。公共施設が少なく高齢者の多い猪谷では避難所配置の考慮が重要だ。
- 災害時の避難場所が不安。中核型地区センターなど、山が裏手にあって大雨の際に土砂崩れの恐れがある施設が避難場所となっている箇所があり、避難するにも避難経路が通行止めとなる所もある。
- 南部地区は、大規模災害が発生した際には橋が通行できず、陸の孤島になる可能性がある。
- まちのイメージ
 - 地域外の人から、細入地域は山の中と思われているのではないかな。そのイメージを変える施設があれば、若者が帰ってきたり、移住する人が出てくるのではないかな。

◆ 公共施設の現状と課題

■ 公共施設全般

- 細入地域は既にコンパクトビレッジだと言える。複合化はやむを得ないが、大沢野地域の施設を利用するのは不便なので、細入地域内での機能面などの質は確保してもらいたい。
- 統廃合することで施設の利用価値や利便性が向上するという前向きな方向性で検討をしたい。1つの施設で複数の用途を済ませられるような、便利な使い方ができると良い。
- 若い人が魅力的に感じ、地域外から人が訪れる施設にしたい。
- 施設を残すためには、地域の人々が利用して稼働率を上げる努力が必要だ。運営側も地域のことを考えて運営してほしい。
- いる施設といるない施設の判断をしていく必要がある。地域の活性化につながる施設は残してほしい。
- 人口が少ない地域なので、住民のための施設の利用者数は当然少なくなる。利用者数が少なくても、地域にとって必要な施設はあるので、利用者数だけで判断してほしくない。
- 廃止後も残っている建物が多い。見た目・犯罪・耐震などの観点から、更地にして駐車場などとして活用した方が良い。

■ 集会施設

- 細入北部地区コミュニティセンターは、利用の要件が厳しく、細入公民館を利用する傾向がある。地域や民間に管理・運営を任せて維持する方法を模索してはどうか。
- 細入公民館は、地域コミュニティの大切な場でもある。
- 災害時には、猪谷の住民は、細入公民館や下々南部のコミュニティセンターにたどり着けない可能性があり、細入南部公民館が大切な施設になる。そのため、公民館は小学校区に1施設といった単純な縮減の仕方はしないでほしい。
- 細入南部地区コミュニティセンターは猪谷の住民が、細入公民館は楡原の住民が使っている。稼働率は悪いかもしれないが地域の南北が12km程あるため、夜の会合や高齢者の利便性を考えると、それぞれの地域に公民館は必要だ。
- 若い世代は公民館を全く使わないので、なくなっても支障はない。
- 一番大きい細入公民館でも、大きなイベントや細入全体の行事くらいでしか利用しない。
- 細入北部地区コミュニティセンターは、特定の人が使っているようなので、その人たちの意見を聞いて検討したらどうか。
- 集会施設内に、ネット環境を整えたシェアオフィスができると地域内外の人から利用してもらえるのではないかな。

■図書館・博物館等

- 猪谷関所館は、猪谷駅にも近く、外国人も含めて観光客がよく訪れており、富山市の南の玄関口としてシンボリックな役割を果たしていると思う。
- 猪谷関所館は、子どもたちの社会教育の場として重要だ。PR等運営面を工夫すれば、猪谷のシンボリックな施設になり得る。
- 細入図書館は、住民も保育所の児童も利用しているし、新しい本もたくさんあるので残してほしい。
- 猪谷関所館は、国道沿いの南部地区センターの中など、もう少し交通の便が良く人が集まる場所に移転しても良いのではないかと。良い施設でも人が来なければ活性化しない。
- 猪谷関所館は、もともと関所があった場所ではないし、今の場所にこだわらなくても良いと思う。

■スポーツ施設

- 榆原プールが神通碧小のプールとなったため、地域住民は猪谷プールに行くしかない。猪谷プールを廃止するのであれば、榆原プールを地域住民に開放してほしい。
- 猪谷地区は、子どもが少ないので利用者はほとんどいない。みんな榆原プールを利用している。猪谷にプール機能は必要ないが、防火用水の機能は残してほしい。
- 親もカウントされているので、猪谷プールの利用者は実際はもっと少ないのでは。毎日管理人を置くくらいなら必要ない。

■保健施設

- 細入総合福祉センター内のデイサービスは、来春からは民営化される。この場所にあることが地域にとっては重要で、運営形態は変わっても機能は残していきたい。
- 細入総合福祉センターには、空きスペースがある。地元の物産などを置くスペースとして活用できないか。
- 同じ地域の方に弱ったところを見せたくないという理由から、他の地域から細入のデイサービスに来る人もいます。
- リハビリしたい人は大沢野に行っている。細入にもリハビリ設備はあるが、職員がいないので使えないのはもったいない。

■庁舎等

- 細入中核型地区センターは、一部しか利用されておらず、耐震性もない。機能が残るならば、細入公民館か総合福祉センターに複合化、または3施設を複合化してもよいのでは。利便性も変わらない。児童館も放課後の居場所づくりにもつながる。複合化によって利用率が高くなれば良い。

■レクリエーション・観光施設

- 天湖森、楽今日館、林林の3施設は細入地域住民にとって思い入れがある施設で、地域のシンボリックのひとつである。
 - 3つの観光施設の活性化にはPRが一番だ。施設のポテンシャルはあるので、市にはそういうソフト面のサポートを求める。
 - 林林の野菜直売コーナーは、売れ行きが好調で人気がある。直売をする高齢者の生きがいにもなっている。このような取組みを、もっと充実させて活性化につなげたい。
 - 天湖森は、土日の利用率は高いが平日の利用率が課題になっていると思う。幼稚園や学校の校外学習に使って、観光だけでなく、社会教育の機能も持たせて価値を高めることはできないか。
 - 楽今日館の敷地内に、高齢者が利用する施設を移転してはどうか。大沢野のウインディが参考になる。利用率が向上し、地域の憩いの場になると良い。
 - 楽今日館のバスを活用することで、地域内の高齢者だけでなく、地域外の高齢者も訪れることができるのではないかと。
 - (株)ほそいりが、改修費等を自ら賄えるようになる必要がある。観光施設やまちづくりに特化した民間会社にノウハウを借りたり、3つのレクリエーション施設をまとめることも考えられるのではないかと。
 - 経営陣も含め、(株)ほそいり全体でアイデアを出していかなければならない。儲けようとしないと活性化には繋がらない。住民も株主となっているので、簡単にやめて住民に迷惑はかけないでほしい。
 - 商売として成り立つかは不明だが、林林の中にコンビニを入れたら地域内外の利用客が増えるのではないかと。
- ### ■学校・保育所
- 学校が選択制となり、榆原中学校以外に通う生徒が増えた。少人数の利点が十分に伝わっていない。中学校自体にさらに魅力を持たせられると学校の存続につながるのではないかと。
 - 榆原中学校にはボート部があり、他地域からボートをやりたい生徒が通っている。売りにはなるがボートだけでは弱い。
 - 廃止となった旧南部保育所の建物は、不審者や動物が入る恐れがあるため、速やかに解体した方が良いと思う。
 - 子ども達が放課後に自由にのびのびできる居場所がない。
 - 規模の縮小や複合化はしても構わないので、保育所、小学校、中学校は地域に残したい。それが若い人の定着につながる。
 - ほそいり保育所は延長保育にも対応してくれるが、勤務先が富山市中心部の人が多いので、なかなか入所児が増えない。
 - 図書館や児童館もあるので、保育所も小学校に移転してはどうか。特色が出ていいのではないかと。

ご意見募集

ワークショップに参加される方だけでなく、多くの細入地域の皆様の意見を今後の計画に反映させたいという考えのもと、ご意見を募集します。

- ワークショップで検討されている内容について
- 細入地域のまちづくりや公共施設について

下記の「お問い合わせ先」まで、メール・ファックス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先

富山市企画管理部行政経営課
電話：076-443-2021
ファックス：076-443-2170
E-mail：gyousei-01@city.toyama.lg.jp

皆様のご意見をお待ちしています！



公共施設マネジメントに関する情報

富山市の公共施設マネジメントに関する情報はHPでご紹介しています。

<http://www.city.toyama.toyama.jp/kikakukanribu/gyoseikeieika/sougoukanrikeikaku/sougoukanrikeikaku.html>